

試料・情報利用研究計画書(概要)				
研究番号	2025-2004	利用形態	内部研究	
研究題目	災害後の国内移住とメンタルヘルスに関する疫学研究		研究期間	2025年9月 ～ 2028年8月
主たる研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	責任者 氏名・職	小原 拓	准教授
分担研究機関	-	責任者 氏名・職	-	-
研究目的と意義	本研究では、災害後の国内移住とメンタルヘルスとの関連を明らかにします。昨今気候関連の自然災害や人的災害が世界で増加しており、無数の生命が危険にさらされています。多くの人々にとって、移住は安全を見つけるための実行可能な手段であり、国境を越えて避難する場合がありますが、多くは国内で再定住します。Internal Displacement Monitoring Centre (IMDC, 2025)によると、国内避難を強いられている人々の数は2018年以降2倍以上に増加し、2024年末までに8340万人に達すると報告されています。また、World Health Organizationによると、人道的な緊急事態を経験した人々のうち約20%が精神疾患に苦しんでいると報告されています。さらに、移住者の心的外傷後ストレス障害(PTSD)の発症率は13%から25%であることが報告されています。ほとんどの研究が難民や亡命者といった人々に焦点を当てている一方で、国内避難民の人々については、強制移住者の中で最大規模であるにもかかわらず研究がまだ進んでいません。国内に留まっている人々が国境を越えて移動した難民の方々と同等のメンタルヘルスの低さを有している可能性も報告されているため、国内で避難している人々のメンタルヘルスのさらなる研究が必要です。 フライブルク大学、ミュンスター大学、ニューサウスウェールズ大学では先行研究から対象の研究を抽出して、災害による国内移住者の人々のメンタルヘルスへの影響を評価するためのメタアナリシスを計画しており、東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査にも協力の依頼があったため、集計結果を提供いたします。			
研究計画概要	三世代コホート調査参加者のうち成人を対象に、東日本大震災後の転居状況別のアテネ不眠尺度(睡眠の質に関する質問)、CES-D(抑うつ状態に関する質問)、K6(心的ストレスに関する質問)の点数分布を算出いたします。			
利用試料・情報	対象: 東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査に参加された方でベースライン時18歳以上の方 約40,000名 試料: なし 情報: 年齢、性別、続柄情報、調査票情報(ベースライン、詳細二次、詳細三次)			
期待される成果	効果的で実施可能なメンタルヘルスへの介入方法を開発するためには、メンタルヘルスへの負荷を国際的に検討することが重要です。国際的なメタアナリシスで国内移住とメンタルヘルスとの関連が明らかになれば、災害時の被災者支援に関する施策立案に役立つ可能性があります。			
倫理審査等の経過	2025年9月 東北大学東北メディカル・メガバンク機構倫理審査委員会承認			
倫理面、セキュリティー面の配慮	東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査の参加者からのすべての情報は、東北メディカル・メガバンク機構で加工され、対応表は生体認証付金庫に収納された生体認証とパスワードによりアクセス制限をされたコンピュータに保管され、一切のネットワークから切り離された状態で管理されています。			
その他特記事項	この研究は運営費交付金により実施します。			
(事務局使用欄)	*公開日 2025年9月25日			